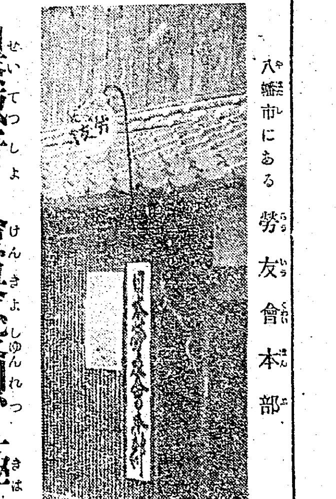
八幡市にある勞友會本部

# 製鐵所の檢擧峻烈を極む
## 煙突の三分の一は煙を吐いたが 過激分子の暴行を恐れて 眞面目に就業するもの少し

大罷業を突發したる八幡製鐵所構内の狀況は七日も略前日と異ならず正午頃には林立せる約五百本の煙突の三分の一は黒煙を吐き出し七十有餘の各工場は大半機械の運轉を開始し居れり、されど出勤職工八千餘名の內其半數は今尚各工場を分擔して作業を妨げつゝある過激分子の暴行を恐れ依然業に就かず殊に最も迫害され易き構內鐵道の如きは運轉を開始する毎に迫害さるゝより機關手は何れもこれを恐れ百數十輛の機關車は空しく蒸氣を立てつゝ機關庫に納まり居り不安の氣依然濃厚なり警察官、憲兵隊の警戒は依然として嚴重を極め居れり（八幡電話）

## 電線其他危害なし
### 只スイッチを開きしのみ

八幡製鐵所の職工が同盟罷業を爲すに當りて各工場の電線其他に危害を加へたるが如き疑ありとの事にて福岡縣保安課より志田電氣技師及び葛西技師六日出張檢査を施行せる結果電氣は單に發電所のスイッチの開き居るのみにて何等障礙を發見せざりき

## 更に多數警官の繰出
### 檢事の急行と大活動

八幡製鐵所盟休事件に關し既に三百餘名の警察官出動して嚴重なる警戒を加ふると共に一面煽動者及び不穩の疑ひある勞友會員其他の檢擧に活動しつゝあるが更に七日朝に至り警察部員及び福岡警察署員百數十名を繰出して應援せしめたる爲め福岡署及び福岡署各派出所は殆ど空明の姿となり尚福岡檢事局にても安達檢事正は平井、林の兩檢事と共に六日午後八幡に急行し大活動を開始せり（福岡電話）

## 白仁長官より 回答の電報は
### 七日早朝發せられた
### 要求を容れた條々

八幡製鐵所に於ける職工は要求五箇條の提案回答を七日午後六時まで待つ事となりしが在京中の白仁製鐵所長官は山本農相其他要路と協議の結果七日早朝八幡なる中川次長宛に回答を急電せり、長官は當日朝農商務省構內製鐵所出張所に於て語る「回答の電報は私から發したが多分七日夕六時頃には中川長官代理から職工側に發表するに間に合ふ事と思つて居る要求に對しては承諾し得た條件もあり又即答出來兼ぬる事項もある**賃銀に關しては出來得る丈けの範圍內に於て多少の色も着けたが、時間の十時間制の要求に就ては官**營の職工として罷りこれは製鐵所のみでなく砲兵工廠やら專賣局やら他の方の振合も見なければならずこれは目下勞働問題で議會にても調査中の事項だから種々協議の上でなければ返事が出來ない、**今の所は待つて貰ひたい**といふ事にした七日朝手許に達した電報は五日夕刻の形勢で同盟罷業を强要する者尚出沒すとのことであつたが私としては一部煽動者の爲す事と信じて居る、多分解決が出來やう、此分では歸任する要もあるまい云々」（東京電話）

## 頭を斬れた勞友會
### 會員の憤慨と盲動と 當局檢擧の苛酷を語る
日本勞働總同盟友愛會九州支部長

大同盟罷業を聞いて急遽八幡に馳せ參じたる神戸楠町六丁目居住の大日本勞働總同盟友愛會九州支部長木村錠一氏は六日夜八幡市中央部の同會支部にて語る「私は神戸で朝日新聞の夕刊を見て初めて八幡製鐵所の大同盟罷業が起つた事を知りましたが私の責任上之れに就き對岸の火災視する事が出來ないので取敢ず友愛會九州支部總會を開催して本會の態度を決定する事にいたしましたが全職工が此の擧に出てたのは以前から決定して居つたものゝやうで常に白仁長官が壓迫に壓迫を重ねて來たのに憤慨して居た職工が一時に堪忍袋の緒を切らして勃發したものと思はれるが餘りに輕率盲動に走つた譏は免れません又警察當局が執りたる行動も餘りに苛酷に失したる點がありまして此點に對して殘念に思つて居ります、夫れが爲更に激昂の度を昂め形勢が惡化して行く樣であるのみでなく率先した勞友會の幹部を全部檢束したので恰も同會は頭を斬つた樣な形となり今後の方針に就ても執る術なく却つて事件を紛糾せしむる傾向があると同時に警察當局の執りたる行動は餘りに不當なる事實がある爲に私の會は五名の委員を選定し本午前中に齋藤警察部長に面會し現在の檢束者を速かに解放し而して同會の取るべき方針を誤らしめないやうにしたいと懇談し更に齋藤部長の紹介狀を以て中川次長に面會しました職工の要求したる條件は合理的の要求と認めるので當局も勞友會と

### 今後歩調を一にせん

歩調を共にして目的の貫徹に努力する積りです」云々（門司電話）

八幡署に拘引の勞友會幹部
（右より）會長淺原健三、副會長西田健太郎、理事松股繁、同[illegible]皆一

## 依然不穩の兆
### 百名二百名各所に集團
### 警保局より調査に出張

【內務省着電】七日午前二時四十五分福岡縣知事發電によれば製鐵所其後の狀況は依然として不穩の兆候あり殊に電報後も大部分は怠業の狀態にあり六日の夜に入り其狀況は高給職工約百名或は二百名諸所に群集をなし電燈線或は機關車等に妨害を加ふる等不穩の模樣あるより目下巡査を派し警戒中なりとあり又午後六時[illegible]後

昨夜迄の情報によれば熔鑛爐外四工場丈けは作業を爲し他は殆んど全部怠業の狀態にあり尚勞友會長其他暴行脅迫の事實あるを以て是等を檢束し目下取調中なり、とあり、因に內務省警保局よりも狀況調査の爲め係官を派遣さるゝやも知れず（東京電話）

## 神戸大祝賀
### 水道完成と開港五十年

神戸市では十年の歲月と二千萬圓の工事費を費した上水道擴張工事が昨年完成を告げたので來月七日（豫定）を期して一大祝賀式を擧ぐることゝし同工事關係者に對しそれぞれ特別賞を出すことゝしたが更に市參事會では是と同時に今日まで延々になつて居る開港五十年祝賀會、築港第一期工事竣工式、同第二期工事起工式、市制實施三十年祝賀會も併せて行ふべしとの希望があつて理事者も贊成して居る、市長は今上京中だから其の歸るのを待つて定める筈であるが多分同時に行ふことになるらしい、經費は五六萬圓を支出して二日間位全市を休業させてお祭り騷ぎをやる筈だと云ふ

## 檢擧六百名
### 非常の混雜を極む
### 應援巡査の數八百名

安達檢事正、齋藤警察部長、野原、野村の兩警視は八幡署に於て協議をなし一色、兒玉、佐藤、金子、平井、林の各檢事は同署內にて訊問所を設け檢擧したる者を片つ端より訊問し居れるが被檢擧者六百名の多數に達し大混雜を極め居れり尚ほ製鐵所警戒の爲め軍隊派遣方を陸軍當局に交涉せりとの說を傳ふる者あり江里口第十二師團高級副官は「陸軍省からも未だ何等の命令に接してゐない、勿論大臣の命令があれば急派するかも知れぬが派遣の準備等全くして居ない、又軍隊出動となるは問題が甚だ重大となるから餘程形勢が逼迫しなければさう云ふことはあるまいと思はれる」と語れり八幡署にては七日正午八幡市消防組及び在鄕軍人會員等を同署へ招き市內の警戒方を依賴したるが七日朝更に大牟田、八屋の各署より數十名の應援巡査派遣直に警戒の任に着けり之にて福岡縣下各警察より應援巡査を召集したる總員八百名の多數に達したり（八幡電話）

## 兩艦に便乘した浦潮の避難民
# 愈上陸許可
### 但し兵學校生徒と乘組員は一切上陸を許さず
### ア號神戸に向はん

浦潮より敦賀に逃げ來れる露國避難民アリヨール、ロヤック兩號に乘組める避難民の上陸問題に就ては內務省よりの富田事務官及び杉野福井縣警察部長等露國側と協議したる結果大體に於て上陸せしむることゝなり、富田事務官は之れが報告の爲め六日歸京し杉野警察部長は七日朝アリヨール號を訪ひ旅行券を所持するものは全部、旅行券を所持せざるものと雖も正規の見せ金を有する合計三十七名及び旅行券、金を所持せざるも身元引受人あり公安を害せずと認めたるものとは全部に對し上陸を許可すべく傳達せり、されど兵學校生徒及び乘組員は一切上陸を許されず、因に右の如く便乘者の上陸問題も已に解決し[illegible]アリヨール號は八日神戸に向ふやも知れず（敦賀電報）

## 森戸事件公判は
# 第二回も公開禁止
### 兩被告夫人も氣遣しげに傍聽
### 東大學生一部傍聽を許可さる
### 辯護士より證人申請

思想界の問題となつた元帝大助教授森戸辰男、大內兵衞兩氏にかゝる筆禍事件の第二回公判を七日午前十一時五十分から東京地方裁判所刑事第一部井野裁判長、金山檢事の係で前回に引續き公開禁止で開廷された

これより先特別辯護人の早大教授安部磯雄氏は眞正直に九時五分前に光臨を極めこんだが途中の人影一人も見えないので『こんなに時間に餘裕のあるとは知らなかつた』と苦笑しつゝ構內の辯護士會館に入る、時計が十時を報じても間もなく當の被告者森戸氏が召喚狀を手にして相被告大內氏と打ち連れ立ちてのよい足音を立てゝ出頭する、稍遅れて縞の着物に黒縮緬の紋附羽織を着けて森戸夫人が同じやうな着物に海老茶の縮緬の羽織を引つかけて大內夫人幾代子が氣遣しげな面持で姿を現はす、次で東大教授佐々木惣一博士は寫眞班の襲撃を避けつゝ逃げるやうに

## 株式後場手口

後場は休日控へ旁々依然として薄商內ながら東京安の割合には引締つて[illegible]

## 株式引跡氣配

[illegible]

## 綿絲引跡氣配

[illegible]

## 前後場手口

左の如し

[illegible]